

愛知県自然観察指導員連絡協議会

協議会ニュース

No. **176**

2022.12



Contents

- | | |
|---------------------------|-------------|
| 1 表紙 | |
| 2 生物・生態研修会報告(8/20) | 名古屋支部 井土 清司 |
| 3 中央構造線日帰りバス研修ツアー報告(9/23) | 名古屋支部 岡田 保 |
| 4 キノコの研修会(10/10) | 西三河支部 武田 和樹 |
| 5 稲武リーダー養成講習会(10/22) | 名古屋支部 細江 真澄 |
| 6 あいちの自然観察会報告(10/30) | 西三河支部 上條 藤子 |
| 7 声からコウモリを視る | 東三河支部 立脇 隆文 |
| 8 東谷山の湿地(湿地シリーズ 10) | 名古屋支部 石原 則義 |
| 9 支部自然自慢 | 尾張支部 内海 勇夫 |
| 10 ご案内/編集後記 | 事務局 |

今号の表紙

ニホンアカガエル

(名古屋支部) 石原 則義

生き物のアップの写真募集中!

生物・生態研修会報告

名古屋支部 井土 清司

岐阜県自然観察指導員連絡会と愛知県自然観察指導員連絡協議会との共催で8月20日(土)に岐阜県百年公園と岐阜県博物館で開催されました。愛知県の参加者は20名、岐阜県は8名でした。

岐阜県百年公園は、関市山田に1975年(昭和50年5月5日)に県設置100年記念として開園しました。開設面積100haの自然地形を利用し、四季折々に咲く花木が訪れる人々の目を楽しませ、様々な木製等の遊具を備え子ども連れが楽しめる公園です。

自然観察会は岐阜県百年公園で行われ、参加者を2グループに分け、岐阜県自然観察指導員連絡会の千藤さん、井上さんに案内していただきました。公園入口の駐車場周りはナンキンハゼ、モミジバフウの並木になっていて、昔はナンキンハゼの実から蠟を取った話や、モミジバフウの二年枝以後若枝にはコルク質の稜が見られる等の説明を聞きました。森の奥へ向かって右側の森裾では、ヤマボウシの色づいた実、アオハダ、ホウノの花の絵をつかって説明されました。自然のなかでは高木のため、花を見ることが困難であり、花をみるための配慮が嬉しかったです。

通路中央には谷川が設けられていて、水辺にデンジソウ(デンジソウ科デンジソウ属のクローバーに似た形の特異な形態のシダ植物)が群生しており、ここは「何も持ち込まない」が守られていないようでした。

脇道に入り、ヌルデの翼、キツネノマゴ、首を傾げたサジガクビソウ、キンミズヒキ、ヒメカンアオイ(葉)、ヒヨドリバナ等の花を観察しました。さらに奥へ進み、カマツカの赤い実、クサギの花、イソノキ(コクサギ型葉序)。カクレミノ(花と実)。タムシバ、シデコブシ(実)。サルトリイバラ等々約50種の植物とハグロトンボ、アオイトトンボ、シオカラトンボ等をツクツクボウシとミンミンゼミの声を聞きながらの観察会でした。

昼食を挟み、博物館内を各自、見学しました。開催中の「蔵出し! 骨のあるやつ」では、海の哺乳類の全身骨格、多くの化石等々を見学しました。

午後は、説田健一氏(岐阜県博物館学芸部自然系長)を講師に迎え、「あなたの知らない標本の世界」と題された講演会がありました。説田氏は大

学時代には甲虫を研究されていましたが、博物館への就職を機に、甲虫以外の動物も扱うことになったそうです。鳥の標本の中にトキがあり、岐阜県武儀郡嘉一村(現、関市)で捕獲されたものもありました。

この頃、学校から不要になった理科室の標本の処分の依頼をされるようになりました。授業に標本を使用することが無くなり、不要になったようです。自然史の標本は採集地、採集年月日等のデータがあることで価値が生じます。ところが学校標本の多くは採集データの無いことが多く、自然史標本としての価値はないのですが、人骨標本、カモノハシ、アホウドリなど今では入手困難なものもあります。カタログなどを調べると島津製作所標本部、山越工作所、池村標本製作所、京都科学などで標本製作が行われていたことがわかりました。当時は旧制中学などで授業に標本が使用されており、私のように標本を使つての授業を受けて無い者からすると、恵まれた環境であったように思われます。

明治から昭和初期にかけての標本の収集は金持ちのすることであったとのこと。有名なところでは、折居 彪二郎などの採集者からの買い入れでした。

折居 彪二郎(1883~1970年)は、大英博物館の資料収集を手伝ったのを機に採集家となり、学者・研究者の依頼で明治から昭和初期にかけ、旧日本領の樺太・千島・満州・朝鮮半島から委任統治していたパラオ・マーシャル諸島など東南アジア一円で学術調査のための鳥獣採取に従事しました(参考文献「柳原コレクション発見される」)。

標本収集者としては、柳原要二(柳原コレクションの収集者)、山階芳磨(山階鳥類研究所の始祖)などがいます。柳原コレクションの一部(鳥類標本1521点)が平成11年に岐阜県博物館へ寄贈されました。



中央構造線日帰りバス研修ツアー

名古屋支部 岡田 保

日 時：9月23日(金・祝)

場 所：新城市方面

参加者：14名(名古屋支部9名、尾張支部2名、
知多支部1名、西三河支部1名、東三
河支部1名)

講 師：西村 拓真氏(鳳来寺山自然科学博物
館学芸員)

当初9月19日(月・祝)に予定されていたこの企画は参加予定者26名でしたが、台風14号の影響で急遽延期されました。しかしこの日も台風15号が近づいており、終始小雨が降る中傘をさしての観察会となりました。

9:30 豊川駅前のロータリーに集合、バス内で講師の西村さんから「そもそも中央構造線とは？」というお話がありました。中央構造線とは諏訪湖から南へ進み、紀伊半島の紀ノ川・四国の吉野川へと続く日本一の大断層で、西日本を北側(内帯)と南側(外帯)に分ける断層帯です。愛知県東部を流れる豊川は、この構造線に沿って流れています。

内帯の岩石は領家変成帯と言われ、花崗岩のように高温で低圧の条件で作られた岩石が存在します。外帯の岩石は三波川変成帯と言われ温度は高くないが高圧の条件で作られた岩石が産出します。日本列島がまだアジア大陸の東端に貼りついていて2,500万年前から、この構造線は何度も活動をしてきたようです。

この日は以下の地点で露頭を見学しました。

桜淵公園…新城市民の憩いの里、桜の名所のこの公園も、中央構造線によって豊川が流れることで成立しているようです。笠岩橋から、地層の様子を眺めました。

長篠露頭…三波川変成帯の結晶片岩の上に領家帯の花こう岩を源岩とするマイロナイト(圧砕岩)がかぶさる露頭を観察しました。

向林露頭…大井川の付け替え工事に見つかった断層面。河川の保全のため自然植生に任せており、この地層面のレプリカが鳳来寺山自然科学博物館に展示してありました。

富栄露頭…三波川変成帯の上に、領家変成帯を覆う第三期中新世の砂岩が露出しています。

※ここで奇跡が起きました。豊川駅ロータリーで集合の時姿の見えなかったMさんがひょっこり現れたのです。何でも金山駅で乗り遅れたので、事前にもらっていた行程表によって追いかけてきたというのです。参加者一同ビックリ！

鳳来寺山自然科学博物館…各自持参のお弁当で昼食。その後西村さんの案内で博物館を見学しました。戦後すぐに地元有志によってスタートしたというこの博物館、地域の地質・植物・動物などの資料が満載です。

陸平露頭と不ッ田の七滝…オーバーハングして見える領家帯のマイロナイト、三波川変成帯は結晶片岩が見えます。両者の境付近には珪質片岩の塊が見られました。

17時少し前、予定より数十分遅れで豊川駅前で解散しました。中にはお稲荷さんや大あんまきのお土産を買う人も。

実はこの後が大変でした。台風の影響で東海道本線は間引き運転、減速走行… 皆さん無事に帰宅できたでしょうか。

天気には翻弄されましたが、実際の露頭見学ができて充実した一日でした。



長篠露頭

キノコの研修会 ～さまざまなキノコに関する視点～

西三河支部 武田 和樹

1. 概要

10月10日(月・スポーツの日)、西三河支部の木村修司さんを講師に迎え、瀬戸市の海上の森園内(駐車スペースから里山サテライト)にて、合計7名でキノコの研修会が行われました。

序盤は雨が降りしきっていましたが、徐々に止んでいき、快晴となりました。観察の終了後に、あいち海上の森センターの本館に移動し、指導員同士の親睦を深めることができました。

2. キノコの文化

観察に出かける前に、キノコの文化的側面に関してお話がありました。

キノコをモチーフにした武家の家紋、あるいはキノコを詠んだ百人一首の歌はあるでしょうか?どうやらこれらは存在しないようです。

その一方で、庶民の間では昔からキノコが食べられており、地方によってさまざまな名前がつけられています。皆さんがお住まいの地域での呼び名はどうでしょうか。

3. キノコにまつわるトピック

キノコといえば“毒”です。キノコの毒には主に(1)胃腸に作用する毒、(2)腎臓や肝臓に作用する毒、(3)神経に作用する毒があります。

では、毒が無いキノコでも食べないものがあるのでしょうか?この答えは簡単で、まずいか硬いなど、おいしくないものです。観察会で、「食べられますか?」と聞かれる場面もあるかと思いますが、「その辺の草を食べないのと同じように、おいしくないキノコは食べない」とお伝えしてみてもいいでしょうか。意外にもそのようなイメージを持っている方は少ないかもしれません。食べたかどうかという視点だけではなく、キノコを「見る」面白さが多くの人に伝わっていったらいいなと感じました。

4. 観察してみよう

枯れ木や枯れ枝、落ち葉の上、砂地などキノコが生息するさまざまな環境が見られたほか、実際に観察して木村さんに教えていただいたものの中には、状態によってまるで違う種類に見えるようなキノコもありました。

冬虫夏草花はタイワンアリタケと、蛾に寄生するハナサナギタケの2種類が見つかりました。

特にタイワンアリタケはアリをゾンビ化させる特異なキノコで、地表から数十cm上にある木の葉の裏に生えていました。サルノコシカケと総称される横長で少し硬めのキノコは皆さんも見かけたことがあると思いますが、今回の観察では5種類見つけることができました。

キノコの全体の姿を離れて見たときに分かる色(白色、黄色、茶色など)や、形に関するおおよっぱな印象はもちろんのことながら、手触りの感触とか裏側の胞子囊の形が丸っこいか楕円形か、あるいは形が定まっていなかったりなど、観察するポイントがたくさんあって面白いなと感じました。



きれいな色・形ですが猛毒(ドクツルダケ)

5. 感想

今回の研修の主目的はキノコの名前を覚えることではなく、どのような観察のポイントがあるか。そしてキノコはどのような環境に生えやすいのかを理解することでした。講師の木村さんの詳しい解説と、参加者の皆さんと一緒に観察したことで、キノコに関して素人の私でもその目的を十分に達成することができました。

自然はさまざまなものが関わり合って形作られていることを考えれば、その道の一流の方に案内していただきながら観察できる今回のような研修の企画はたいへん有意義なものです。

協議会のホームページで研修会のお知らせを随時確認し、新人の方はもちろん、中堅・ベテランのみなさんもぜひ参加してみませんか。

日時：10月22日(土)8:00～15:30

場所：稲武野外教育センター

参加者：8名

西三河支部の山本博美さんにご案内いただき、豊田市田市稲武町「面の木原生林」にて、新指導員1名を含む8名が参加してリーダー養成講習会が行われました。

愛知県の原生林は「きららの森」、「面の木原生林」、「大沼」の三か所だそうです。

今回は「ムクロジ科」を主テーマにしてブナ原生林の植生と特徴を観察しました。

面の木原生林のムクロジ科

始めに「日本で見られるムクロジ科 27 種の内、面の木原生林では約 19 種が見られる」と説明がありました。なぜ「約」なのか？種類の同定の違いがあるということのようです。この時点では理由はわかりません。見分けは簡単そうでもあり難しそうでもあります。そのような複雑な気持ちでスタートです。

カエデはいろいろな葉の形があり見分けづらいのですが、カエデの基本的な特徴として①葉は対生、②翼のついた種、③風媒花で花は美しくないとの説明。

イタヤカエデは葉が形が分かりやすく見分けは容易と思っていました。ところがこの木の仲間には種類が多くあります。オニイタヤ、ウラゲエンコウカエデ、イトマキイタヤ、モトゲイタヤなどイタヤカエデの亜種とされているものが多くあります。イタヤカエデでひとくくりで見ていた私でした。

ハウチワカエデという名前のカエデは多く、コハウチワカエデ、ハウチワカエデ、ヒナウチワカエデがあり。仲間ではオオイタヤメイゲツが加わります。この仲間も葉の切れ込み、大きさ、毛の有無、葉柄の長さなどで見分ける難しさがあります。オオイタヤメイゲツはブナ林でしかから見られないで樹高が高く林冠に達するカエデです。

葉が分かれな一枚の葉のカエデはチド

リノキとヒトツバカエデです。

チドリノキはクマシデに似ていますが、カエデの基本（対生）で見分けられます。

ヒトツバカエデはオオカメノキかオオミヤマガマズミのような感じです。葉も対生です。ハート形のように葉の基部が湾入するのが特徴です。

ムクロジ科の 19 種（○イロハモミジ、○オオモミジ、○ヒナウチワカエデ、コハウチワカエデ、○オオイタヤメイゲツ、ウリカエデ、○ウリハダカエデ、ホソエカエデ、○ウラゲエンコウカエデ、○オニイタヤ、イトマキイタヤ、ミツデカエデ、○メグスリノキ、○ヒトツバカエデ、カジカエデ、○アサノハカエデ、○チドリノキ、○コミネカエデ）の内、今回は 13 種（○印）を見ることができました。

日本で見られる 27 種の半分（13 種）を見ることができました。愛知県にあるカエデは見分けられるようにしたいですね。

この原生林の植生を起点にすれば、各地の植生の同じところと違うところに気が付くことができそうです。

1000m付近からブナ林が広がり、溪流沿いにオオモミジガサがありました。

名古屋から 2 時間弱で行ける面の木原生林をフィールドにして、観察を続けてみようと思います。



ムクロジ科の観察

あいちの自然観察会報告

西尾いきものふれあいの里～万燈山

西三河支部 上條 藤子

日時: 10月30日(日) 9時～12時
参加者: 23名 (一般14名、会員9名)

「西尾いきものふれあいの里」に着くと、鳥を観察する人の車が駐車していた。この場所にくると何故か心が落ち着いてくる。のどかな風景のせいかもしれない。

青空を見上げ今日は観察会日和。お題は「野山の秋の花」。「先に万燈山に登り、周りの植物は帰りにじっくりと見ましょう」と説明があった。

案内人の高橋さんを先頭に歩きだす。すぐにクマツヅラの薄紫の小花を見る。土手を上がりため池の小草池に出る。土手から目下にカゴノキの大木がある、この木は木肌を見ないとわかりづらい。カラスザンショウの大木、ナンキンハゼの実が弾け出した。初めて見るシセントキワガキは直径1センチ位の実、食用の柿の実とそっくりで可愛い。

右側の小草池にはコガモ、カイツブリ? が3羽ほどいた。山沿いの道に出ると高い木が茂り暗いが、木の下にはコ克蘭が枯れた花穂をつけて道路沿いに並んでいる。咲いている姿を想像する。道はだんだん荒れてきて石ころが多くなってきた。これは9月の大雨が原因だそう。最近の自然の力は恐ろしい。

アオハダ、イヌビワ、ホソバイヌビワの



落葉樹、木肌が見えるカゴノキ、カクレミノ、ムクノキ。最後の階段状の細い山道を登る。途中アキノキリンソウ、リュウノウギク。

頂上につくとツリガネニンジンのお花畑だった。メカルガヤ、コセンダングサ、オトギリソウ、シラヤマギク、アキノキリンソウ、コウヤボウキ、アキノタムラソウが咲いていた。



万燈山山頂のツリガネニンジン

展望を見る、正面はトリトン、東山タワー、名古屋駅付近、左側は碧南の火力発電所まで見えた。

帰りは林道へ出るとキチジョウソウが一杯あり、花や蕾をたくさん付けていた。

ふもとに着くと、スズカアザミ、ヌスビトハギ、ノダケ、クサネム、コブナグサ、紅葉したボントクタデ、実をつけたカナムグラ、白い花のジャクチリソバ、ヤノネグサ、オギノツメがあった。ジャクチリソバの実はアクが強く食べないが、葉は食べるようだ。

建物裏にキクカラクサがあった(私は初めて見た)。葉が唐草模様のようなのでその名がついたようだ。草が枯れ始めた大地は手入れされており、また来年春に花を咲かせてくれる予感がする。

今日は初めて見る野草もあり、十分楽しむことができた。

声からコウモリを視る

東三河支部 立脇 隆文

夏の夜、街灯の下には、ガなどの小さな虫がくるくると飛びまわっています。その虫たちに向かって黒い影が飛んでいくのを見たことはありますでしょうか。コウモリです。コウモリは、哺乳類でありながら、飛ぶことができる点や、超音波の反響音から位置を特定するエコーロケーションができる点で、ユニークな動物です。ユニークな生態を持つコウモリですが、実は、世界にいる 4000 種以上の哺乳類のうちの約 1000 種を占め、日本には、約 35 種がいると言われています。

私は東三河自然観察会の会員であると同時に、あいちコウモリ調査隊（以下、調査隊）にも所属しています。調査隊は、瀬戸市にある海上の森の自動撮影カメラに、テングコウモリらしきコウモリが写ったことがきっかけとなって発足した任意団体です。調査隊では、これまで、海上の森にある洞窟（こうもり穴）において、特別な許可を得て、コウモリの標識調査を実施してきました。令和 3 年度からは、海上の森を飛び出して、「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業」の助成を受け、愛知県の各地で、コウモリの観察会や、コウモリの超音波を録音する調査を始めています。

昼間に活動する鳥類と違い、夜間に活動するコウモリでは、目視や捕獲が難しく、生息状況がよくわかっていませんでした。環境省の分布図を見ると、夜に町中を飛び回っている最も一般的なアブラコウモリでさえ、「分布情報が不足している」とされています。ところが近年、スマートフォンに装着すると、超音波を録音できるマイクが入手できるようになってきました。こうしたマイクを用いれば、そこにコウモリがいることを簡単に記録できるようになったのです。日本のコウモリについては、超音波の特徴から種を判別する基準は十分に整備されているとはいえませんが、20kHz くらい

といったグループの特定や、他種と明確に異なる声を出す一部の種（キクガシラコウモリなど）の判別ができる状況です。今後、分類が難しかった種も判別できるようになるかもしれません。

調査隊による愛知県内の録音調査は、1 年目が終わり、2 年目のとりまとめに差し掛かっています。1 年目は、愛知県内の 200 以上の地点で、5 分間の録音を計 400 回以上行いました。その結果、愛知県内の広い範囲で、アブラコウモリが出す 50kHz 付近の声だけでなく、ヒナコウモリやヤマコウモリが出す 20kHz 付近の声が録音できることがわかってきました。また、キクガシラコウモリについては、レッドデータブックあいち 2020 において、田原市では絶滅と書かれていますが、田原市内の 2 地点で声が録音され、生息していることが再確認されました。

こうして集めた録音データは、風力発電施設の計画が増えたとき、ドローンが飛び交う世界に移行しそうになったとき、あるいは、コウモリを介する感染症が増えたときなどに、コウモリと人間がどのように折り合いをつけていくかを検討する資料になるとよいと思っています。簡単な調査ですので、ご興味ある方は、一緒にコウモリを調べましょう！



キクガシラコウモリ

東谷山の湿地(湿地シリーズ 10)

名古屋支部 石原 則義

シマジタムラソウはシソ科。国内分布は愛知県、三重県、岐阜県であり、東海地方固有の多年草の植物。湿地性植物の中では森林化が進行してもかなり遅くまで林内に残存しているが、それでもあまり暗いところでは生育できない。

名古屋市守山区上志段味にある東谷山周辺において行った調査では、谷筋や山裾、沢筋丘陵地斜面から湧水が供給されている場所で生育していることを確認している。シデコブシと同じ生育場所である。花期は7月20日前後。葉は茎の下に集まって対生し、羽状複葉。雄蕊は花の外に飛びだし、特徴的である。

本種は生育地の森林化が進行していることから、愛知県レッドリストでは準絶滅危惧、名古屋市レッドリストでは絶滅危惧1A類に位置付けられている。(愛知県環境調査センター2020、名古屋市環境局企画部環境企画課2020)

◇今回、葉数(複葉を1枚でカウント)、葉身長(最大複葉の長さ)、葉幅(最大複葉の幅)、小葉数(最大複葉の小葉数)、花の状態について調べた。

東谷山周辺に自生するシマジタムラソウを調査した結果、4か所で観察できた。

◇1箇所は東谷山南斜面の尾張戸神社参道沿いの沢筋にある湿地である。2箇所目は中央に島があり、両側に谷筋があるところからY湿地と呼んでいるが、この湿地を保全するにあたり東谷山の南西側に位置していることから新たに「南西湿地」と呼ぶようになった、北側の北湿地である。3箇所目は大矢川上流域の左岸ある。4箇所目はK1湿地(「大島造園」前の谷筋)である。

◇東谷山の南斜面、尾張戸神社参道沿いの沢筋では8株を確認。南西湿地(Y湿地)の北湿地では37株を確認。大矢川上流域の左岸では53株を確認。K1湿地では7株を確認。合計105株確認できた。

留意点としては、南西湿地の北湿地に毎年のようにイノシシが出てきて湿地を踏み荒らしていること。大矢川上流域の左岸は私有地であり、左岸の上まで造成工事がせまっていることである。

最後に、東谷山周辺のシマジタムラソウを”郷土の宝”として次の世代に残していくことが、私たち保全をするものの使命であると考えている。今後も私たちが手を取り合って、シマジタムラソウなど希少種を守っていききたい。



大矢川上流域左岸



南西湿地

支部自然自慢

尾張支部 内海 勇夫

尾張自然観察会の紹介をします。現在会員は61人。月1回、担当者がその方向性を考え9カ所で観察会を行っています。また、会報も月1回発行しています。今回は3カ所の紹介をします。

木曽川下流自然観察会

尾張支部の定例自然観察会の中では最も後発ですが、木曽川近くの公園で始めて8年になります。公園は人工的な施設で珍しい生き物が多い場所とは言えませんが、しっかり観るといろいろな発見があります。

- キツネの巣穴（2015年からずっと）
- 在来のもスビトハギと巨大なフジカンゾウ（外来のアレチヌスビトハギと共存）
- 平地部では見かけないツリガネニンジンやウバユリ
- オオタカの営巣と雛2羽の巣立ち。

これからも新しい出会いがあるでしょう。

また、さまざまな外来植物が生育していますが、公園なので定期的な草刈りが行われた結果、消滅したものもあります。こうした植物の栄枯盛衰が見られるのも興味深いですね。



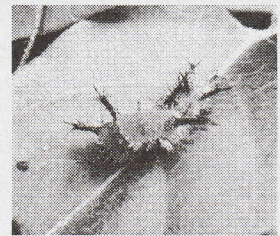
オオタカ

海上の森自然観察会

以前大島さんが行っていた観察会でしたが、齋竹さんから今の源田さんへと変わってきました。自分も、源田さんだけではということで参加しています。案内は源田さん、どちらかというと昆虫、見逃すような小さな虫や蛾を観察しています。



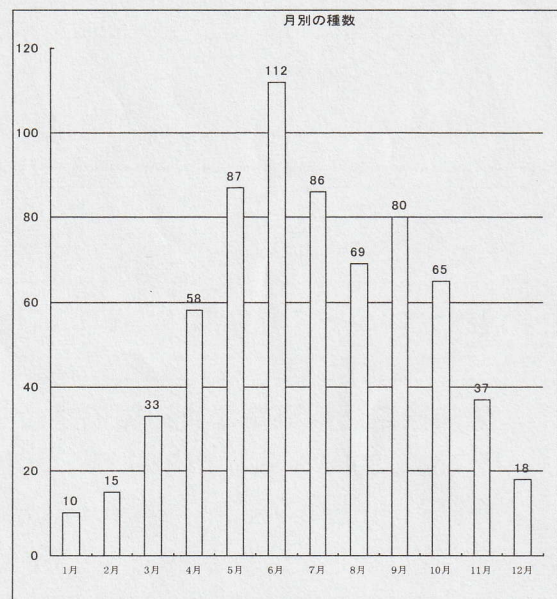
ツツジメムシガ



アサマイチモンジの幼虫

日進岩藤川自然観察会

日進市と東郷町で、観察会や散歩中に蛾を見つけることがあります。かなりたまってきたので、見た蛾を月ごとに一覧表にまとめてみようと思い立ちました。年に数回発生を繰り返す蛾もありますが、あえて月ごとに数えて棒グラフにしました。季節の変化とよく合い、蛾の暮らしをのぞいた気がしました。



総会・講演会のご案内

- 日 時：3月21日(火・祝) 13:00～16:30
- 場 所：名古屋市中心企業会館(吹上ホール) 4階 第2会議室(45名定員)
名古屋市中千種区吹上二丁目6番3号
- 内 容：受付13:00～ 総会：13:30～14:30 記念講演：14:40～16:00 意見交換会：～16:20
講 師：松岡 敬二氏(前・豊橋市自然史博物館館長)
演 題：研究の歩みと私的博物誌
- 交通機関：地下鉄桜通線「名古屋駅」から徳重行き、「吹上駅」下車 5番出口より徒歩5分

40周年東三河の自然展 知多支部記念講演会 大盛況！

- 東三河支部40周年自然展9/21～9/25(のんほいパーク) 1200名来展
- 知多支部40周年記念講演会11/19(東海市立文化センター) 約60名参加
講演会：知多半島の自然の魅力と生態系保全活動 14:00～15:30
講 師：日本福祉大学副学長 福田 秀志 教授 展示会：13:00～16:00

名古屋支部総会報告の訂正とお詫び

協議会ニュースNo.174 P8に掲載した名古屋支部総会報告の中で紹介した令和4年度支部役員の記事の中で定例自然観察会の代表者に安井弘さんが就任されたと記載しましたが実際とは違っていました。ここにそうした事実はなかったことを報告すると共に関係者の皆様にお詫びを申し上げます。(名古屋支部長 滝田久憲)

<編集後記>

2022年度の行事は東三河支部40周年記念講演会1/14(穂の国とよはし劇場PLATアールスペース)を除き滞りなく終了しました。詳しくはHP参照。

今年度の行事は協議会ニュース176号に収録されています。来年度は自然観察指導員講習会の年です。8月19日(土)～20日(日)「美浜少年自然の家」を予定しています。会場受付は2月からですので、多くの宿泊希望がある場合は日時が変わるかもしれません。

編集スタッフ	石原則義 内海勇夫 岡田雅子 馬場隆之 平山希能
協議会ニュース編集部	石原則義 事務局に同じ

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市中千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087

E-mail : norimameobata@yahoo.co.jp Web Page : <http://anoicm.sakura.ne.jp>

郵便振替口座 : 00820-9-6546 (名義 : 愛知県自然観察指導員連絡協議会)